



「からいも (甘藷) を知る



▲会場にはからいもスイーツも多数出展されていました

「からいも」は全国的に「さつまいも」と呼ばれ、親しまれている作物です。1745年に中国を経由し大津に伝えられました(諸説あり)。火山灰を多く含み、痩せた、水はけのよいの土地とからいもは非常に相性がよく、他の作物が育たない条件でも甘く実るため、飢饉や病気などからたくさんの命を救いました。

江戸時代に入るとその甘みが注目され、菓子の原料などにもなりました。戦中戦後は豊富なでんぷんをアルコール発酵して燃料にする研究が行われ、町では以前、アルコールを精製する工場が稼動していました。

工場のおかげで大津町のからいも生産は増え、県内で1番の生産地になり現在に至ります。最近では、食物繊維、ビタミンなどが豊富な優れた健康食品として注目されています。「大津町といえばからいも」。これからも住民に愛される食べ物です。

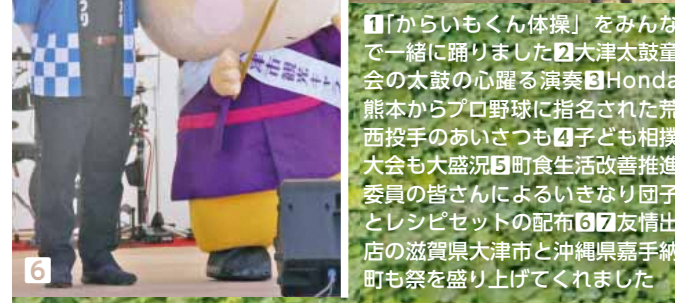
からいもフェスティバル 絵手紙コンテスト



会場内で行われた絵手紙コンテストの表彰作品を含む展示を行います。おいしそうなからいもの絵手紙が並んでいます。ぜひご覧ください。

「道の駅大津」展示日程表

日程	作品出展学校
12/10(月)~16(日)	大津南小、大津支援学校
12/17(月)~23(日)	護川小、大津北小
12/24(月)~ 1/6(日)	室小、大津東小
1/7(月)~13(日)	美咲野小1・2年生
1/14(月)~20(日)	美咲野小3・4年生
1/21(月)~27(日)	美咲野小5・6年生、一般の部
1/28(月)~2/3(日)	大津小1・2年生
2/4(月)~10(日)	大津小3・4年生、大津中
2/11(月)~17(日)	大津小5・6年生、大津北中



1「からいもくん体操」をみんなで一緒に踊りました2大津太鼓童会の太鼓の心躍る演奏3Honda熊本からプロ野球に指名された荒西投手のあいさつも4子ども相撲大会も大盛況5町食生活改善推進委員の皆さんによるいきなり団子とレシピセットの配布6友情出店の滋賀県大津市と沖縄県嘉手納町も祭りを盛り上げてくれました

第30回

からいもフェスティバル

in おおづ

掘って、知って、楽しんで、

からいもがもっと好きになる。

空気の澄んだ秋晴れの11月11日。「からいもフェスティバル in おおづ」が本田技研工業(株)熊本製作所の南側の一部で開催されました。今年は、記念すべき30回目。町内外から約2万8,000人が参加しました。今年も町の秋を彩る祭りの魅力をお伝えします。



くまモンも会場を盛り上げてくれました

会場ボランティアもがんばりました!

© 2010 熊本県くまモン

「からいもシアター」では、約15分の映像作品が上映されており、「見るだけで詳しくなれた」と好評でした。30周年ということもあり、「沖縄県嘉手納町」「滋賀県大津市」が友情出店し、絆も一緒にPR。今年もたくさんの人たちが「からいも」を中心につながりました。「大津IIからいも」を次の世代に残すこと。それは町を愛する私たちの使命です。これからも続くからいもフェスティバルの歴史をみんなで一緒に掘って、知って、楽しみながらつなげていきましょう。

また、からいもの魅力をもっと知ることが出来る「からいも館」がお祭り限定で登場。中には、江戸時代のレシピを再現したからいも菓子振る舞いや、大津高校による似顔絵作成・プレゼントサービスなどのコーナーもありました。

毎年恒例の「いも掘り大会」は、イベント会場南側のからいも畑で行われました。町内外からのからいもオーナーや当日受け付けの皆さんがスコップや手袋を使った掘りに夢中になっていました。また、からいもの魅力を毎年恒例の「いも掘り大会」は、イベント会場南側のからいも畑で行われました。町内外からのからいもオーナーや当日受け付けの皆さんがスコップや手袋を使った掘りに夢中になっていました。

午前10時。ついに30年目のからいもフェスティバルが開会。メインステージのオープニングを飾ったのは、大津太鼓の一人打ち。大太鼓の音が会場を盛り上げます。続いて、家入町長による主催者あいさつと、今年、社会人野球からプロ野球にドラフト指名されたHonda熊本硬式野球部の荒西祐大投手に「からいもくん」から激励の花束が贈られ、会場がお祝いの空気に包まれました。その後も、メインステージでは、歌や音楽、ダンスなどさまざまな催しが行われ、来場者を楽しませます。